加茂谷中学校人権通信

きずな

4 月号

2024 年 4 月 8 日（月）発行

加中人権スローガン

「気づき・考え・行動する」

めざす学校像

「希望と笑顔があふれる楽しい学校」

スタート ～新しい教科書・教科書無償運動に学ぼう!～

現在、当たり前のように無償で配布されている教科書は、今から 60 年ほど前に『全ての子どもたちが安心して学習してほしい。」という想いから、『教科書無償』の運動を起こした高知県長浜の被差別部落の人々の強い願いがあったから、今に受け継がれているのです。

憲法には、「義務教育は、これを無償とする」（日本国憲法 26 条第2項）とあるのに、安くない教科書を買えない家では、兄や姉、知り合いの子から『おさがり』『お古』の教科書をもらって使っていました。

この地区の親たちは、自分たちの生活や仕事、教育をよくするための学習会で、憲法を学習する中で、憲法 26 条を知り、「買えない子がいたり、買えないことで悲しい思いをするのはおかしい」と気付き、教科書無償運動を展開し、市・県・国を動かし、法律制定によって、『全ての児童・生徒に教科書をタダで配布する』ことが実現しました。

そして、1963 年度（昭和 38 年度）入学の小学 1 年生に始まり、順次その対象が拡大されて、1969 年度（昭和 44 年度）には全ての小学生と中学生の教科書がタダになりました。

教科書無償運動の背景　～差別の結果による厳しい暮らし～

半農半漁のこの地区では、厳しい部落差別のために、安定した仕事に就けなかったため、収入が増えず、苦しい生活を強いられていました。そのため、教科書代が大きな負担でした。仕事がないため、地区の多くの母親が従事していた失業対策事業では、1 日の賃金が約 300 円なのに、教科書代は、1961 年当時、小学校は 700 円、中学校は約 1200 円でした。子どもの数が今に比べて多かったその当時は、教科書をそろえるだけでも大変な出費でした。

1961 年3月 26 日(日)高知新聞

高知県の『教科書無償運動』は、部落解放運動の大きな成果の一つです。

同和対策審議会答申（1965 年）が出される前に、憲法を根拠に立ち上がった高知県長浜の『教科書無償運動』は、全ての人に、豊かな教育を保障する日本の歴史の中でも画期的な運動です。『おかしいことはおかしい』と気付き、起こした運動は、全ての人の権利を守り、より暮らしやすい社会の実現につながっています。

1961 年 5 月 18 日(木)高知新聞

家庭人権学習の日（毎月第1日曜日）にご家族で読んでみてください！

仲間と作る楽しい教室

阿波市立阿波中学校　1年　河本　賢親

　僕は今、学校に行くのが大好きです。学校に行けば、友達や先生に会えるし、授業も楽しいからです。でも、小学校中学年のころ、学校に行くのが嫌になったときがありました。それは、クラスで発表するときや、教科書を読むときに、自分の番になると心臓がドクドクして、うまく声が出せなくなり、発表の途中で詰まってしまうことがあったからです。教科書を読むのにも周りの友達より時間がかかります。まだ読んでいる途中なのに、

　「パラッ」

と、教科書をめくる音が聞こえるとよけいに緊張してうまく読むことができませんでした。うまく伝えることができなかったり、教科書を読むことができなかったりする度に、

　「みんな、僕の話を聞くのは嫌じゃないかな。」

　「早く読んでほしいと思ってないかな。」

そんなことを考えてしまい、話すことが嫌になっていました。そして、僕はそんな自分が大嫌いでした。

　「どうして僕はこうなんだろう。」

　「うまく話せる人はいいなぁ。」

いつもそう思っていました。

　そんな僕が、自分のことを好きになったのは、小学校 6 年生のときでした。英語の授業で、友達の発表が終わる度に、大きな拍手と歓声がわいて、とても盛り上がり、クラス全体が一つになっている感じがしました。いよいよ僕の番が来たとき、いつもなら心臓がドクドクするのに、そのときはドクドクしませんでした。前に立って発表していると、どんどん楽しくなりました。こんな気持ちになったのは、初めてでした。終わったときには、みんなが大きな拍手をして、ニコニコしてくれていました。僕はこの時から、発表するのが好きになりました。僕がこのように変われたのは、クラスのみんなが『話しやすい環境』を作ってくれたからでした。みんなが笑っていて、発表する人に勇気をあげていました。みんながあの空気を作ってくれたから、うまく話すことができました。

「このクラスだったら大丈夫だ。」

その日から、班活動をしても自分から積極的に意見を言うことができるようになったり、班長としてみんなの意見をまとめて発表することができるようになりました。近所の人とも話をすることができるようになりました。出会った人に、大きな声で挨拶ができるようになりました。自分のことも少しずつ好きになり始め、学校に行くのも楽しくなってきました。

　4月、僕は中学生になりました。入学式の前日、

「別の学校の友達と一緒のクラスになっても、うまく話せるかな。前の僕に戻ってしまうんじゃないかな。」

不安になって、眠れませんでした。不安なまま、中学校生活が始まり、毎日、緊張して過ごしていました。

　そんなとき、道徳で「そんな教室つくろうや」という授業をしました。発表が苦手な子もみんなが自信を持って発表できるクラスにしていこうという内容でした。僕はその授業で、話しやすい環境ができるのを待つのではなく、自分から作っていこう。自分から発表していこうと、思いました。

　僕はいま、4月の不安と緊張でいっぱいだった僕ではありません。1年2組の教室が大好きです。なぜなら、発表するときに全く緊張しなくなったからです。僕はまだ、発表するときに、詰まってしまったり、スピーチをするときになかなかうまく声が出せなくなったりすることもあります。でも、2組のみんなは、声を澄ませて、目と耳と心を、僕の方に向けて一生懸命聞いてくれます。僕が失敗しても、助けてくれたり、応援してくれる友達がいます。そんな仲間がいてくれるから、毎日、学校に来るのが楽しいし、今も勇気を持って、ここで話すことができています。

　僕の他にも、まだ発表するのが苦手な友達がいると思います。そんな友達が発表することを好きになれるように、学校に来るのが楽しいと思えるように、今度は僕が『話しやすい環境』を作っていきたいです。

（第42回全国中学生人権作文コンテスト奨励賞受賞）